

会津念仏摂取講

会津念仏の歴史は古く、若松融通寺十三世浄蓮社文誉上人や同寺三十八世栄誉岳順上人、それに明治初年に、石井大宣師の世話による講の組織等によって普及され、現在まで保存されてきた。

熊倉町小沼の安養寺に伝えられる念仏踊りも、このような古い伝統と歴史の移り変わりのなかで保存され、受け継がれてきたものである。

踊りは十一項からなり、前半の供養念仏に続いて、円陣を組んだ踊りに移っていく。踊りは、白毛の付いたばちで打つ太鼓に合わせて腰をくねらせ、合掌にかたどった手ぶり足ぶみで、

移動することなく踊りを続けていく。

所在地

熊倉町新合字小沼 安養寺

指定年月日

昭和三十七年九月十三日



三津谷の登り窯

岩月町三津谷にある登り窯は、煉瓦造り十連式の構造となっており、間口四・五メートル、奥行き十八メートルで、一度に約九千個のレンガを焼くことができる。

この登り窯は、明治二十三年に樋口市郎氏によって造られたもので、初めは七段であった。現在のような十連式となったのは、二代目喜市氏のとときであり、磐越西線のトンネル、加納鉱山の坑道、喜多方周辺のレンガ蔵や風呂などの材料を焼いていた。ふつう登り窯には見られない煙突が付けられるなど、全国的にも珍しく貴重なものである。

昭和四十五年に工場を閉鎖したが、昭和五十七年に地域経済振興策の一つとして補修され、五十八年から生産を開始している。

所在地

岩月町宮津字火付沢

樋口憲一氏所有

指定年月日

昭和五十七年十月十四日

